

有馬記念館年報 第4号

平成29(2017)年度

平成30年7月
公益財団法人有馬記念館保存会

ごあいさつ

有馬記念館は、昭和 34 年（1959）の久留米市制 70 周年を記念して、石橋正二郎氏（株式会社ブリヂストン社長・当時）より施設を寄贈され、昭和 35 年に開館し、久留米の郷土資料館として親しまれてきました。

平成 21 年度には、久留米市制 120 周年と石橋正二郎氏生誕 120 年を記念して、施設の改修工事を行い、平成 22 年 11 月 28 日にリニューアル・オープンしました。以来、特別展・企画展など、数々の展示会を開催し、大名有馬家や久留米藩ゆかりの歴史資料・美術工芸品を公開してまいりました。

平成 29 年度にはリニューアル・オープンから 8 年目を迎え、リニューアル・オープン以降、29 年度末までに延べ 76,320 人にご来館いただきました。今後も、郷土資料の収集及び調査、公開を進め、久留米をテーマとした展示会を中心に開催してまいります。

事業の周知のため、平成 27 年度に年報を創刊し、このたび第 4 号を発行することとなりました。当館の活動を知っていただき、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 30 年 7 月 31 日

公益財団法人有馬記念館保存会
会長 宮原 義治

目次

I 有馬記念館の概要	1
1. 施設の設置	1
2. 施設の管理	1
3. 施設の概要	1
4. 運営	2
5. 予算	3
6. 開館時間	3
7. 入館料	3
II 平成 29 年度事業の概要	4
1. 展示	4
2. 広報	8
3. 教育普及	9
4. 資料の収集	9
5. 収蔵資料の活用状況	10
6. 入館者数	10

I. 有馬記念館の概要

1. 施設の設置

有馬記念館は、昭和 34 年(1959)の久留米市制 70 周年を記念して、昭和 35 年に郷土資料の調査・研究を目的に、当時の株式会社ブリヂストン社長・石橋正二郎氏より寄贈されたものである。市制 120 周年にあたる平成 21 年度に改修工事を行い、翌 22 年度にリニューアル・オープンした。

2. 施設の管理

公益財団法人有馬記念館保存会事務局（久留米市市民文化部文化財保護課内）

※当財団は公益財団法人の認定を福岡県知事より受け、平成 24 年 4 月 1 日より公益財団法人に移行。

3. 施設の概要

所在地 福岡県久留米市篠山町 444 番地

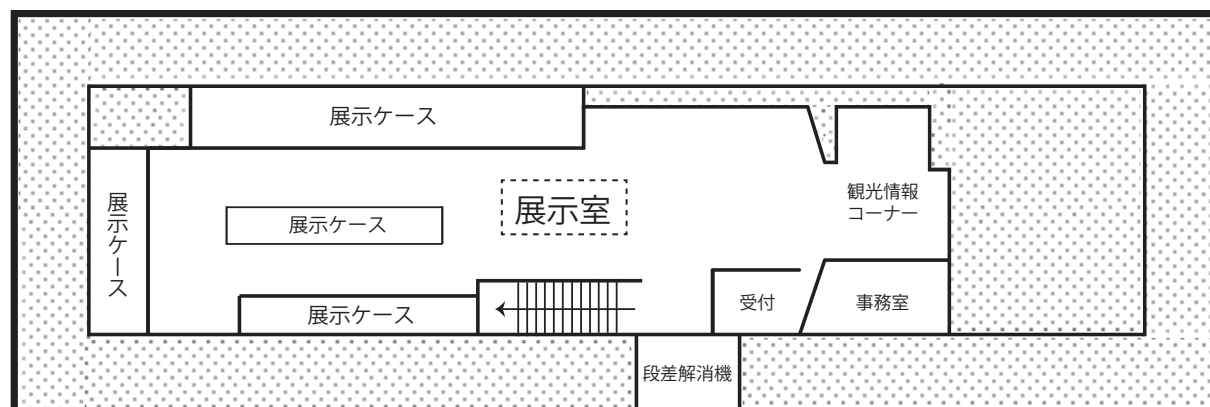
建築面積 492.9㎡

構造 鉄筋コンクリート造 2階建

竣工 昭和 35 年 3 月 28 日

（平成 22 年度有馬記念館内外部改修・耐震改修工事実施）

有馬記念館展示室（2階）平面図



4. 運営

公益財団法人有馬記念館保存会

役員名	氏名	所属
会長	甲斐田 忠之	久留米市市民文化部文化芸術担当部長
副会長	本村 康人	久留米商工会議所会頭
常務理事	西村 信二	久留米市市民文化部次長
理事	山田 茂人	篠山神社宮司
理事	永田 見生	久留米大学理事長
理事	富澤 章	株式会社ブリヂストン九州生産本部総務部長
監事	有岡 正治	株式会社福岡銀行執行役員県南地区本部長
監事	土屋 尚之	久留米市会計管理者

評議員	橋本 政孝	久留米市副市長
評議員	樋口 一成	久留米郷土研究会代表
評議員	河北 宣正	篠山神社総代
評議員	山本 修司	公益財団法人久留米観光コンベンション国際交流協会常務理事
評議員	森田 悠基	株式会社ブリヂストン九州生産本部総務部総務課長

・事務局

事務局長（1）－ 事務局次長（1）－ 事務局員（4）

職名	氏名	所属
事務局長	馬場 博文	久留米市市民文化部文化財保護課 課長
事務局次長	白木 守	同 課長補佐
書記	岡崎 明美	同 事務主査
書記	穴井 綾香	同 主任主事
書記	佐藤 響子	同 主任主事
書記	高取 莉沙	同 任期付非常勤職員

（平成30年3月31日現在）

5. 予算

経常収益費計 15,306,558 円

経常費用計 15,325,112 円

6. 開館時間

開館時間 10:00 ～ 17:00（但し、入館は 16:30 まで）

休館日等 毎週火曜日（火曜日が祝祭日の場合はその翌日）

年末年始 展示替期間

7. 入館料

- ・高校生以上 200 円（150 円） 小中学生 100 円（50 円） ※（ ）内は 15 名以上の団体料金
- ・毎週土曜日は高校生以下無料
- ・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳の交付を受けている方及びその介護者 1 名は無料
- ・その他の減免制度あり



有馬記念館 外観

Ⅱ. 平成 29 年度事業の概要

1. 展示

(1) 第 1 回企画展「藩主の肖像」

会 期 平成 29 年 5 月 27 日(土)～平成 29 年 7 月 31 日(月)
内 容 大名有馬家は、初代有馬豊氏が元和 7 年(1621)に久留米入りし、江戸時代を通じて久留米藩を治めてきました。本展では、久留米藩の御用絵師によって描かれた歴代藩主の肖像や藩主ゆかりの品を展示し、その人物や治世について紹介しました。

初代豊氏から最後の藩主頼咸まで、肖像画の現存しない 2・3・5 代を除いた藩主の肖像画が一堂に並びました。ゆかりの品として、藩主直筆の書状や書画、9 代藩主頼徳手製と伝わる柳原焼茶碗、藩主所用の印など、34 点を展示しました。



(佐藤)



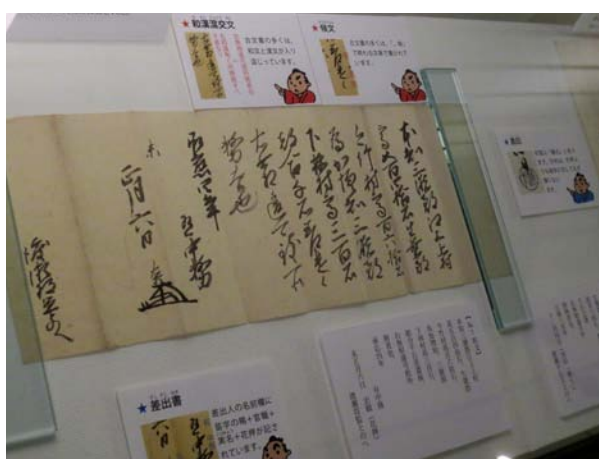
展示風景

(2) 第2回企画展「大名有馬家臣団Ⅱ―家臣の家と古文書―」

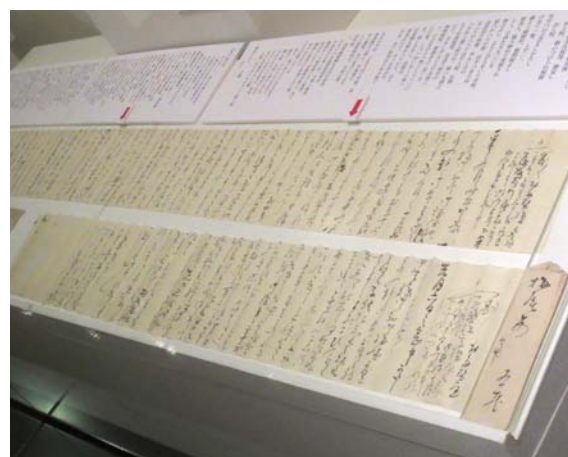
会 期 平成29年8月19日(土)～平成29年10月30日(月)

内 容 「大名有馬家臣団」シリーズの第2弾として、大名有馬家の家臣たちについて、古文書とともにそれぞれの家の歴史を紹介しました。展示は、渡瀬・坂本・久保・衣笠・水野の5家に伝来した家筋や来歴を示す系譜、主君から与えられた文書、職務に関する記録などの歴史資料と、久留米藩家老有馬織部に関する新収蔵資料で構成し、41点を公開しました。

また、古文書観覧のポイントを分かりやすく紹介するため、リーフレット2種類を作成し、展示会場で配布しました。(穴井)



リーフレット



展示風景

(3) 第3回企画展「花鳥画の世界—久留米藩御用絵師の絵画から—」

会 期 平成 29 年 11 月 18 日 (土) ~平成 30 年 1 月 22 日 (月)

内 容 江戸時代に久留米藩の御用絵師を務めた三谷家による絵画資料から、草花や鳥を組み合わせで描いた花鳥画を中心に展示しました。

華やかな屏風や掛幅のほか、花鳥画に関する模写や下絵、写生といった粉本類も含め、21 点を紹介しました。

会期中、関連イベントとして、「七宝焼の小物作り」(12 月 17 日、参加者 29 名) を開催。金属の表面に色とりどりの釉薬 (ガラス質) を焼き付ける七宝焼でブローチなどの小物を作りました。 (佐藤)



展示風景



イベント風景



(4) 第4回企画展「姫様のひなまつり」

会 期 平成30年2月10日(土)～平成30年4月16日(月)

内 容 ひなまつりの時期に合わせ、有馬家に伝来するひな人形やひな道具を紹介しました。人形やミニチュアサイズのお道具をひな壇に飾り、近代の有馬家で飾られていた様子を再現。また、姫様所用の調度や人形も展示しました。さらに、久留米でひなまつりの季節に飾られてきた「おきあげ」など、243点を展示しました。

会期中、関連イベントとして「ひな御膳を味わい学ぶ和食作法」(2月24日、参加者29名)を開催。芸員による展示解説の後、ひなまつりにちなんだ和食を味わいながら、和食の作法を学びました。(佐藤)



展示風景



イベント風景

2. 広報

(1) 広報活動

◆印刷物

年間スケジュールリーフレット

各企画展のポスター・チラシの製作・配布（4回）

◆ホームページ

展示会・イベントの案内や、開館情報等を随時更新している。

(2) 報道記事

掲載月日	掲載紙等	内容
5月23日	西日本新聞 朝刊	歴代の久留米藩主紹介 肖像画やゆかりの品 34点
5月25日	朝日新聞 朝刊	藩主の肖像に久留米の歩み 絵図や書状も展示
6月2日	読売新聞 朝刊	歴代の久留米藩主を紹介
7月13日	西日本新聞 朝刊	久留米藩の歴史を学ぶ
11月27日	西日本新聞 朝刊	久留米藩の御用絵師・三谷家 「花鳥画の世界」で魅了
11月30日	朝日新聞 朝刊	久留米藩御用絵師の精華 目立つ縁起もの、漂う狩野派の作風
2月10日	読売新聞 朝刊	大名家のおひな様 披露
2月11日	毎日新聞 朝刊	表情など精巧に 250点 「姫様のひなまつり」 久留米で始まる
2月16日	西日本新聞 朝刊	お姫様の道具 絢爛
3月1日	広報くるめ	久留米藩御用絵師の精華 目立つ縁起もの、漂う狩野派の作風

(3) 展示・イベント情報掲載紙

◆新聞

朝日新聞 熊本日日新聞 西日本新聞 毎日新聞 読売新聞

◆雑誌等

月刊ぷらざ TOBU SECOND ご当地新聞くるめすたいる リビング福岡

◆地方公共団体広報紙
広報くるめ

3. 教育普及

◆学校見学受入れ

6月6日	久留米大学（37名）
6月13日	久留米大学（45名）
9月27日	久留米市立青陵中学校（8名）
10月13日	久留米市立牟田山中学校（8名）
10月23日	久留米大学（41名）
10月24日	久留米大学（19名）
11月22日	久留米市立合川小学校（77名）

4. 資料の収集

(1) 本多正勝書状（寄託）

当史料は、平成30年2月26日付けで、有馬頼底氏より寄託を受けた。6月15日付で本多正勝（出羽守）より久留米藩主2代有馬忠頼（有馬兵部大夫）宛てに出された書状で、忠頼の訪問を受けた礼を述べるとともに、病中のため「肩衣」も着用せずに対面した失礼を詫げる。

本多正勝（1596～1630）は、徳川家康付の年寄を務めた本多正純の長男で、慶長16年（1611）、従五位下・出羽守に叙任される。元和8年（1622）、父正純が改易されると、連座して出羽由利郡に配流され、寛永元年（1624）には秋田藩主・佐竹義宣のもとに移された。また、有馬忠頼（1603～1655）は、元和3年（1617）に兵部大輔に任ぜられ、寛永15年（1638）4月に中務少輔に復す。

よって書状の年代は、有馬忠頼が「兵部大輔（大夫）」を名乗る元和3年以降、本多正勝が配流される同8年の間であると推定できる。また書面から、両者が訪問できる距離に滞在することから、ともに在江戸と見られる。



本多正勝書状

(2) 篠山神社所蔵歴史資料（寄託）

当史料群は、平成30年3月7日付けで、宗教法人篠山神社より寄託を受けた。主に旧久留米藩主有馬家及び旧久留米藩士からの寄贈・譲渡によって構成され、年代は近世～現代、内容は古文書、古記録、絵図、古典籍、書籍など多岐にわたり、数量は約3,200件に及ぶ。当史料群については、平成30年度より、順次、調査目録を刊行する予定である。

5. 収蔵資料の活用状況

◆印刷物掲載

許可日	申請者	目的	内容
6月23日	株式会社ビデオ ステーション キュー	テレビ西日本報道番組「土曜NEWSファイルCUBE」において、久留米藩の歴史を紹介するため	有馬頼寧肖像写真

6. 入館者数

(1) 平成 29 年度 入館者数 (展示会別)

展示会名	開館日数	入館者数 (人)		
		有料	無料	合計
第 1 回企画展「藩主の肖像」	57	759	296	1,055
第 2 回企画展「大名有馬家臣団Ⅱ 一家臣の家と古文書」	62	625	379	1,004
第 3 回企画展「花鳥画の世界 久留米藩御用絵師の絵画から」	53	959	304	1,263
第 4 回企画展「姫様のひなまつり」	57	1,125	1,062	2,187

(2) リニューアル・オープン～平成 29 年度 入館者数 (年度別)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
入館者数 (人)	4,375	11,264	28,148	5,605	5,388	6,578
展示会数	企画展 2	特別展 1 企画展 3 常設展 3	特別展 1 企画展 1 常設展 3	企画展 2 常設展 2	企画展 3	企画展 4
年度	H28	H29				
入館者数 (人)	8,846	6,116				
展示会数	特別展 1 企画展 3	企画展 4				

※H 22 は、11 月 28 日リニューアル・オープン以降

有馬記念館年報 第4号

平成29(2017)年度

平成30年7月31日

発行 公益財団法人有馬記念館保存会
福岡県久留米市篠山町444

印刷 香和印刷株式会社
